

令和 2 年度 入学 試験 問題

地 理 歴 史

100 点満点

《配点は、一般入試学生募集要項に記載のとおり。》

地 理 B (1～11 ページ) 世界史 B (13～27 ページ)
日本史 B (29～43 ページ)

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 43 ページである。また、解答冊子は表紙のほかに、
地理 B：12 ページ、世界史 B：16 ページ、日本史 B：8 ページ、である。
3. 問題は地理 B：5 題、世界史 B：4 題、日本史 B：4 題である。
4. 試験開始後、選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名
をはっきり記入すること。表紙には、これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部「文系」・文学部・教育学部「文系」・法学部「前期日程」・経済学部
「文系」受験者は、地理 B・世界史 B・日本史 Bのうちから 1 科目選択するこ
と。
6. 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
7. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
8. 解答冊子は、どのページも切り離してはならない。
9. 問題冊子は持ち帰ってもよいが、選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはなら
ない。

日 本 史 B

(4 問題 100 点)

I 日本史B問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(18)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

太上天皇、円覚寺に崩す。時に春秋三十一。(中略)外祖太政大臣忠仁公は、^(a)_(注)当朝の摂政なり。枢機は整密にして、国家は寧静たり。(中略)故に後の前事を談ずる者、貞観の政を思わざるはなし。大納言伴 の息、右衛門佐中^(b)庸火^(c)を行ひ、^(注)応天門を焼く。事の発覚するに及び、罪は大逆^(d)に至り、その父に相連す。しかるに 、承伏^(e)を肯んぜず。臣下、あるいはおもえらく、罪に疑うべきありと。天皇、刑理を執持し、ついに寛仮せず。 父子、および他の相坐する者数人、みな配流に従う。(中略)また僧正宗叡法師あり。入唐して求法し、真言を受得す。天皇に勤め奉り、香火の因を結ぶ。^(e)

(『日本三代実録』元慶4年(880)12月4日癸未条)

(注) 「太上天皇」は、文中の「天皇」と同一人物である。

「火を行」うとは、放火すること。

「寛仮」は、ゆるすこと。

問

- (1) 下線部(a)は、「太上天皇」が数え年の31歳で死去したと述べている。この人物が天皇位についた時には、数え年の何歳であったか。
- (2) 下線部(b)の「忠仁公」の養子で、政治的地位を受け継いだ人物は、この記事の4年後、ある重要な地位についた。その地位は何か。
- (3) 下線部(c)の「貞観の政」をこの史料は賞賛しているが、貞観年間(859～877)は、日本とある国家との政治的緊張が高まった時期でもあった。海峡を隔てた九州北部の勢力と内通しているとも疑われた、この国家の名を記せ。
- (4)

ア

 に当てはまる人名を記せ。
- (5) 下線部(d)の「大逆」を謀ることは、国家・天皇に対する、特に重大な犯罪とされた。同様の罪に「謀反」「悪逆」などがあるが、それらを総称して何と呼んだか。
- (6) 下線部(e)に記された「入唐」は、貞観4年に行われた。その9年前に唐に渡り、台密の発達に寄与した僧侶の名を記せ(あ)。また、その僧侶の門徒(寺門派)が拠点とした寺院の名を記せ(い)。

B

イヨリ後、平氏世ヲミダリテ二十六年、文治ノ初、頼朝、権ヲモハラニセシヨリ父子アイツギテ三十七年、承久ニ義時、世ヲトリオコナイシヨリ百十三年、スベテ百七十余年ノアイダ、オオヤケノ世ヲーツニシラセ給コトタエニシニ、此ノ天皇ノ御代ニ、掌ヲカエスヨリモヤスクー統シ給ヌルコト、宗廟ノ御ハカライモ時節アリケリト、天下コゾリテゾ仰ギ奉リケル。
(注)

(中略)

ソモソモ、彼ノ高氏御方ニマイリシ、ソノ功ハ誠ニシカルベシ。スズロニ寵幸アリテ、抽賞セラレシカバ、(中略)程ナク参議従二位マデノボリヌ。三カ国ノ吏務・守護オヨビ、アマタノ郡庄ヲ給ル。弟 ウハ、左馬頭ニ任ジ、従四位ニ叙ス。昔、頼朝タメシナキ勲功アリシカド、高位高官ニノボルコトハ乱政ナリ。ハタシテ子孫モハヤクタエヌルハ、高官ノイタス所カトゾ申伝タル。高氏等ハ頼朝・実朝ガ時ニ、親族ナドトテ優恕スルコトモナシ。(中略)サシタル大功モナクテ、カクヤハ抽賞セラルベキトモアヤシミ申ス輩モアリケルトゾ。

(注) 「ミダリテ」は、「乱して」の意味。

「権ヲモハラニセシ」は、「権力をほしいままにした」の意味。

「宗廟」は、天皇家の先祖のこと。

「抽賞」は、恩賞を与えること。

「優恕スル」は、優遇すること。

問

- (7) に当てはまる元号を記せ。
- (8) 下線部(f)に関して、頼朝の軍勢が平氏を滅ぼして源平争乱を終結させた合戦の名称を記せ。
- (9) 下線部(g)の「天皇」とは誰か。
- (10) 下線部(h)に関して、高氏は、彼に出陣を命じた得宗に背いて、天皇の「御方」(味方)に参入した。この得宗とは誰か。
- (11) には、高氏とともに二頭政治を行ったことで知られる人物の名前が入る。この人物が滅亡した、幕府の内紛は何か。
- (12) 下線部(i)に「高氏等」とあるのは、高氏らの先祖を意味する。彼らの先祖である義兼は、頼朝が挙兵直後に設置した侍所において、頼朝と主従関係を結んだ。義兼は幕府においてどのような立場にあったか。漢字3字で記せ。
- (13) この史料の筆者は、当時の天皇のどのような行為を批判しているのか。簡潔に記せ。

C

卷一 国民の天皇

憲法停止。天皇は全日本国民と共に国家改造の根基を定めんがために天皇大権^(j)の発動によりて三年間憲法を停止し両院を解散し全国に戒厳令を布く。

天皇の原義。天皇は国民の総代表たり、国家の根柱たるの原理主義を明らかにす。

華族制廃止。華族制を廃止し、天皇と国民とを阻隔し来れる藩屏^{きたはんべい}を撤去して明治維新の精神を明らかにす。^(注)

普通選挙。二十五才以上の男子は大日本国民たる権利において平等普通に衆議院議員^(k)の被選挙権および選挙権を有す。(中略)女子は参政権を有せず。

卷三 土地処分三則

私有地限度。日本国民一家の所有し得べき私有地限度は時価拾万円とす。

私有地限度を超過せる土地の国納。私有地限度以上を超過せる土地はこれを国家に納付せしむ。

徴集地の民有制。国家は皇室下付の土地および私有地限度超過者より納付したる土地を分割して土地^(l)を有せざる農業者に給付し、年賦金^{もつ}を以てその所有たらしむ。^(注)

卷五 労働者の権利

^(m)労働省の任務。内閣に労働省を設け国家生産および個人生産に雇傭さるる一切労働者の権利を保護するを任務とす。

労働時間。労働時間は一律に八時間制とし日曜祭日を休業して賃銀を支払うべし。

⁽ⁿ⁾幼年労働の禁止。満十六才以下の幼年労働を禁止す。

婦人労働。婦人の労働は男子と共に自由にして平等なり。但し改造後の大方針として国家は終に婦人に労働^{ついで}を負荷せしめざる国是を決定して施設すべし。

(注) 「藩屏」は、垣根のこと。君主を守護する者を指す。

「年賦」は、売買代金などを毎年一定額ずつ分割して支払うこと。

問

- (14) 下線部(j)に関して、この史料の筆者から思想的な影響をうけた陸軍の青年将校らが約1,400名の兵を率いて首相官邸などを襲撃し、内大臣の齋藤実や大蔵大臣の高橋是清らを殺害した事件を何というか。
- (15) 男性に被選挙権を与える年齢を除いて、下線部(k)とほぼ同内容の衆議院議員選挙法改正を成立させた内閣の首相は誰か。
- (16) 下線部(l)に関して、
- (あ) 「土地を有せざる農業者」で、土地を借りて、その使用料を収穫物などでおさめて農業を営む者を特に何というか。
 - (い) 1947年に行われた農地改革では、(あ)のような者に土地を与えるため、どのようなことが行われたか説明せよ。
- (17) 下線部(m)と同名の官庁は1947年、最低賃金や労働時間などの労働条件を定めた法律の制定に伴って設置された。この法律を何というか。
- (18) 下線部(n)に関して、1911年に制定され、12才未満の工場労働を禁じ、また女性と15才未満の男性の工場労働を1日12時間までに制限するなどした法律を何というか。

Ⅱ 日本史B問題

(20点)

次の文章(①～⑩)の ～ に入る最も適当な語句を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 縄文時代の食料獲得は、狩猟・漁労・採取を基本としていた。漁網のおもりである や、矢に使われた など、多様な石器が使用された。
- ② 縄文時代の晩期ころには、九州北部で水稻栽培が開始されていたことが、佐賀県 遺跡の水田遺構などから推定されている。水稻栽培は日本列島の各地に波及したが、北海道では 文化と呼ばれる食料採取文化が継続した。
- ③ 巨大な古墳に注目が集まりがちだが、 県三ツ寺Ⅰ遺跡などの居館も、古墳時代に豪族が成長をとげた物証として重要である。他方で古墳時代後期ころから、小型墳の密集する が、各地で爆発的に造営された。この現象は、いわゆるヤマト政権が有力農民層まで掌握したことを示すと考えられる。
- ④ 天皇の時代、隋と正式な国交が結ばれた。これに伴い、大陸の文化が続々と流入し、法隆寺金堂釈迦三尊像などを代表とする 文化が花開いた。
- ⑤ 鎌倉時代には農業技術が発達し、牛馬や鉄製農具の使用が広まり、収穫量の多い 米が輸入されるなど、生産力が高まった。また、交通の要地には定期市が開かれるようになり、『』には備前国福岡における市のにぎわいの風景が描かれている。
- ⑥ 後鳥羽上皇は、朝廷において政治面だけでなく文化面でも主導性を発揮し、八番目の勅撰和歌集である『』を編纂させた。またその子の天皇が著した有職故実の書である『』は、後世の規範にもなった。

- ⑦ 鎌倉後期には、荘園領主と武士の紛争が多発し、朝廷・幕府ともに裁判制度の充実が求められるようになったこともあり、後嵯峨上皇は幕府の影響のもとで を設置した。またその子 は幕府の将軍として迎えられた。
- ⑧ 室町時代、日本と朝鮮の間では正式な通交が行われていたが、倭寇の影響は大きく、15世紀前半には対馬がその根拠地とみなされて、朝鮮軍によって襲撃される と呼ばれる事件が起きた。その後、貿易は再開されたが、16世紀初頭に、日本人居留民らによる と呼ばれる暴動が起きると、通交は縮小された。
- ⑨ 幕末維新期の来日西洋人医師は、多彩な事績をもって知られる。1859年に来航したアメリカ人 は本来宣教師で、ローマ字の和英辞典もつくった。1876年に招かれたドイツ人ベルツは、30年近くに及ぶ教師・侍医としての日常や政治・社会の動向を日記に書き残した。条約改正問題により襲撃されて重傷を負った外務大臣 のもとに駆けつけたこともつづられている。
- ⑩ 地方公共団体において文化財保護を担当してきたのは であり、そもそもは教育行政に国民の民意を反映させ、地方分権化をはかるため、1948年に設置された組織である。1956年に公選制から任命制へと変わり、現在にいたる。また1968年には、伝統ある文化財を保護し文化を振興することを掲げ、中央官庁としての が設置された。

次の文章(A～C)の ～ に最も適当な語句を記し、問(1)～(16)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

隋・唐の勢力拡大は東アジアに国際的な緊張をもたらした。倭国もまたそれ^(a)に対処する必要に迫られ、大化改新に始まる中央集権国家の構築は、こうした国際情勢に関連するとされる。大化改新では、豪族による領有を前提にして人民を支配する部民制から、国家が直接的に人民を支配する公民制への転換が図られ、豪族から切り離された人民を領域的に編成するために が全国的に設置された。 は地方の有力豪族が任じられていた の支配領域を分割・統合することによって設置されたもので、 の一族は律令制下の郡司へつながっていくこととなる。

それをうけて天智天皇の時代には、公民の把握を目的とした全国にわたる戸籍が作成された。 と呼ばれるこの戸籍は、律令制下においても氏姓の根本台帳として利用された。天武天皇の時代になると、豪族の私的な人民支配がいつそう強く否定され、朝廷に奉仕する豪族へは、一定数の戸からの税金を与える などが支給されるようになった。位階や官職の制度も整え^(d)られていき、豪族は律令官人へと再編成されていった。

東アジアとの接点に置かれ、外交・軍事上の要となったのが大宰府である。律令制において、1戸(正丁3～4人)に1人の割合で徴発された兵士は、諸国の に配属され、訓練を受けたが、その一部は防人として大宰府に送られて、九州沿岸の防衛にあたった。また、大宰府は西海道諸国を統括する役割も帯びており^(e)、西海道諸国で徴収された調・庸は大宰府に集められ、中央へ送られるものを除き、大宰府の運営に用いられた。

問

- (1) 下線部(a)に関して、唐の中国統一後に、第1回の遣唐使が送られた。この時、薬師恵日とともに唐へ派遣された人物は誰か。
- (2) 下線部(b)に関して、大化改新の際に中臣鎌足がついた地位は何か。
- (3) 下線部(c)に関して、人民が口分田を捨てて、戸籍に登録された地を離れる行為・状態を何と呼ぶか。
- (4) 下線部(d)に関して、律令制においては蔭位の制と呼ばれるものが存在した。この制度を簡潔に説明せよ。
- (5) 下線部(e)に関して、8世紀半ばに、大宰府の官人という地位を利用して、西海道諸国からの兵を集めて反乱を起こした人物は誰か。

B

平安末期から鎌倉初期には、^(f)法然や親鸞など新仏教の開祖となる宗教家が現れる。彼らが庶民のみならず、貴族からも一定の支持を得たことは確かである。ただ、興福寺・東大寺などの大寺院は全国に^(g)荘園をもち、荘園の現地では大寺院の下級僧侶が五穀豊穡や荘民の安穩を祈願しており、天台・真言・南都の仏教こそが広く社会に浸透していた。大寺院に属する^{ひじり}聖たちは、天皇・貴族から庶民まで幅広く資金を集める^{かんじん}勧進活動を行っており、平氏により焼き討ちされた^(h)東大寺の再建では、が勧進上人となって復興を主導し、大仏殿や南大門を造立した。

鎌倉中期以降、中国の僧侶が多く日本に渡来するようになり、鎌倉では新たに禅宗寺院が建立された。北条氏は、禅宗に加え宗の僧侶も保護し、⁽ⁱ⁾叡尊・忍性らは貧民救済や道・橋の修造などの社会事業を展開した。

宗は南都・真言などの大寺院とも深い関係をもち、が建立した金沢文庫に隣接する称名寺には諸宗の経典・書籍が集積され、関東における仏教修学の拠点寺院となった。また鎌倉後期には、天台・真言などの大寺院の有力僧も鎌倉に下向して、北条氏の保護のもと宗教活動を展開していた。

浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・禅宗など、鎌倉時代に現れた新仏教は徐々に社会へと広まっていき、室町中後期になると信仰の基盤を固めていく。日蓮宗は京都の町衆に信者を増やし、が形成された。しかし1536年にはと対立した勢力により、京都の日蓮宗寺院が焼き払われた。また、浄土真宗では蓮如が平易な文章で書かれたにより専修念仏の教えを説き、北陸・東海・近畿の武士や農民たちの信仰を得た。その門徒は急速に勢力を拡大して、^(j)一向一揆などに発展することもあった。

問

- (6) 下線部(f)に関して、法然の専修念仏を批判した「興福寺奏状」を起草した人物とされ、南都仏教の復興に尽力した法相宗の僧侶の名前を記せ。
- (7) 下線部(g)に関して、大寺院とともに、上皇のもとにも荘園が集積されるようになる。後白河上皇が自身の持仏堂に寄進した荘園群の名称を記せ。
- (8) 下線部(h)に関して、東大寺惣大工といわれ、大仏の鑄造などで活躍した、宋から来日した工人の名前を記せ。
- (9) 下線部(i)に関して、忍性が病人の救済・療養を目的に奈良に設けた施設の名称を記せ。
- (10) 下線部(j)に関して、1488年、一向一揆により滅ぼされた加賀国の守護の名前を記せ。

C

江戸幕府は全国に約400万石の直轄領(幕領)を有していた。直轄領には、政治・経済・軍事の中心地で三都と呼ばれた江戸・京都・大坂という大都市をはじめ、全国の重要都市が含まれていた。また、幕府は全国の主要鉱山を直轄地とし、大きな収入を確保するとともに貨幣鑄造権をにぎっていた。

こうした幕府直轄領の支配について、年貢徴収・治安維持などは、全国に配置された代官と、特に関東・飛騨などに置かれた が担い、勘定奉行が統轄した。

一方、江戸から離れた全国の重要都市などの要地には 奉行と総称される役人が任命されて派遣され、さまざまな役割を担った。例えば、貿易都市である長崎に置かれた長崎奉行は、長崎の都市行政を担いつつ、貿易を管轄するという重要な役割を与えられていた。さらに、徳川家康を祀る日光東照宮を守護する役割を担っていた日光奉行など、固有の役割を担う 奉行もいた。また、近世後期になると、蝦夷地の直轄化に伴い に奉行が置かれるなど、時代状況の変化に応じて新たな地方組織が設置されることもあった。

さて、江戸幕府の全国統治の上で、最も重要な役割を担った地方組織が置かれたのが京都・大坂という大都市を中心とする上方地域であった。京都に置かれた は、朝廷の統制・監視を行うとともに、西国大名を監視するなど、幕府の全国統治、中でも西日本の統治において大きな役割を担った。大坂には大坂城代が置かれ、城を守護しつつ、大坂町奉行や堺奉行を統率し、西国大名の監視も行っていた。

問

- (11) 下線部(k)のうち、幕府が奉行を置いて支配した東日本有数の金山は何か。
- (12) 下線部(l)について、百姓が領主から課された負担のうち、山林・原野・河海などからの収益に対して課された税の総称は何か。
- (13) 下線部(m)について、19世紀初頭にイギリス軍艦が長崎港に侵入した事件の責任をとって切腹した長崎奉行は誰か。
- (14) 下線部(n)に用いられた建築様式を何というか。
- (15) 下線部(o)を中心に、17世紀後半から18世紀初頭にかけて花開いたのが元禄文化である。この時期、大坂道頓堀で人形浄瑠璃を興行し、大成させたのは誰か。
- (16) 下線部(p)について、公家から選ばれて朝幕間の連絡を担当した役職は何か。

IV 日本史B問題

(30点)

次の問(1), (2)について, それぞれ200字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 田沼意次の財政政策について, 享保の改革との違いにも着目しながら, 基本方針と具体的政策を述べよ。

- (2) 明治・大正期の社会主義運動の展開について述べよ。

日本史B問題は, このページで終わりである。

令和2年度

問題訂正（地理歴史（日本史B））

下記の問題訂正があります。

記

問題訂正

地理歴史 問題冊子（日本史B）

Ⅱ 日本史B問題 36ページ

1行目

(誤) ⑦ 鎌倉後期

↓

(正) ⑦ 鎌倉時代